

いまなぜ三重の博物館か（県の考え方）

県は、文化の基本的な重要性を前提としつつも、「今特に必要なこととして」文化振興があり、そのミッション（使命）があると考えたため、今回の検討を行うこととしました。あわせて、文化振興のミッションを実現していくための重要な拠点として博物館の整備が必要と考えています。

1 なぜいま文化振興が重要なのか

文化のもつ可能性を前提に、長期的視点に立って時代潮流をみた時、県のとるべき方向性のひとつとして文化振興を位置づけることが重要であると考えました。

文化は、いつの時代にも私たちにとって欠かすことができない、大切なものですが、あえて、いま県は文化振興を通じて何をめざすのか（文化振興のミッション＝使命）ということについては明確にしておくことが必要であると考えています。

（1）文化振興の果たす役割

今後人と人の競争がより激しさを増すことが考えられますし、一方で地域の人と人との絆が弱くなり、家族関係が希薄になるなかで、地域のもつ総合的な力が弱くなっていく可能性があると考えられます。

また、地域主権の社会が確立するなかでは、地域を運営する一人ひとりの住民がしっかりと自分の地域を見つめ、行動していくことが不可欠となりますし、地域間競争が厳しさを増すとも言われています。

このような状況のもとで、県民の皆さん一人ひとりが、文化に触れ親しみ、文化活動に参加し、他者との共感のもとで、豊かな人間性と創造性を育み、コミュニケーション能力や感性を磨くことなどを通じて、自己を成長させるきっかけをつくる文化振興の役割は大きいと考えます。

あわせて、地域にとっても、一人ひとりの住民の力によることはもちろん、地元の人や歴史を生かした地域づくり、地元の文化を活用した商品の開発、地域の歴史、文化を連携した観光事業など、地域のもつ文化等を生かして地域力を高めることにもなります。

（2）県がめざす戦略としての文化振興のミッション（使命）

県民一人ひとりが文化に触れ親しむことは、自分をみつめ、他人を思いやり、自分たちの暮らす地域に目をやることにつながります。文化振興により、一人ひとりの成長と自己実現をはかり、地域の絆や地域を思う心が育つような社会づくりをめざします。

(県民一人ひとりの成長と自己実現のための文化振興)

また、文化は、地域に住む私たちが継承、創造、発展させてきたものです。私たちの暮らしや考え方、地域の特徴が表れています。文化振興により、地域のアイデンティティ(個性)を明確にするとともに、一人ひとりのもつ力の高まりによって、地域のもつ潜在的な力(ポテンシャル、可能性)を高め、住む人にとっても、訪れる人にとっても魅力的な地域づくりをめざします。

(地域のアイデンティティ(個性)が明確になり、一人ひとりのもつ力が地域に還元されることで地域の潜在的な力(ポテンシャル、可能性)と魅力を高めるための文化振興)

2 ミッションを実現していく重要な拠点としての博物館の必要性

博物館(特に県立)は、地域の歴史、民俗、自然等に関するモノ資料を扱い、これらを保存し、次世代に継承するとともに、調査研究し、展示等により広く紹介するなど活用することにより、県内外の人に三重に関わる人、歴史、自然などを伝え、未来に向けた考察のきっかけをつくる役割を果たしています。

県は、博物館に、地域の一人ひとりの地域についての学びや自己実現の場として、地域について研究と考察を深め、地域の魅力を見出す場として期待をし、三重にふさわしい博物館の整備が必要であると考えています。

3 文化に対する県民の意識(参考)

平成19年度の一万人アンケート(三重県)によると、「文化・芸術に関する重要意識」は62.9%で、44項目中下から3番目、「歴史・文化遺産に関する重要意識」は71.8%で、いずれも「人権尊重」90.9%、「生涯学習」82.6%、「青少年の健全育成」92.9%に比べ低くなっています。

また、同じ一万人アンケートによると、「文化・芸術」については、「重要度がかなり低く、満足度が標準程度の項目」、「歴史・文化遺産」については、「重要度が低く満足度は標準以上の項目」と分析されています。

このように、必ずしも県民の意識は、文化を重要としているとは限らないことが調査の結果に表れています。

このような状況についても受け止めながら、県としては、現在の社会状況等を長期的にみた時、人材育成、地域力の向上にとって文化振興が大きな役割を果たすと考えており、なかでもそれを進める拠点としての博物館が重要であると判断しています。

(別紙)

なぜいま文化振興が重要なのか(関係資料)

次のような文化のもつ可能性を前提に、長期的視点に立って時代潮流をみた時、県のとるべき方向性のひとつとして文化振興が重要であると考えました。

(1)文化のもつ可能性

文化が地域の誇りになる

自分の住む地域の人や歴史、文化、自然を知り、発見することにより、地域に誇りを持てるようになる面があると考えています。

文化が人の心に働きかける

芸術文化をはじめとして、文化は感性に訴え、また、地域の文化を知り、発見することが驚きとなって人の心に働きかける面があると考えています。

文化が人の絆を生む

まつりや作品づくりなどにより、互いに交流して、ひとつのものを作りあげる作業をすることや、作品やものを通じて他人のことに思いいたることを通じて、人の絆を生む面があると考えています。

文化が地域の財産になる

過去や現在の文化資産は、地域のことを表し、記録し、また、地域の魅力を高め、産業振興につながるなど、地域の財産といえる面があると考えています。

(2)時代潮流

人口減少社会

人が減り、社会の活力や生産力が低下すると言われています。

地方分権型社会

国から地方への権限移譲が進められる一方で、自分たちの住む地域のことは自分たちで考え、運営する、という地域主権の考え方が広まりつつありますが、一方で、このような地方分権型社会の進展は、住民一人ひとりの力や熱意や産業振興の高低や行政能力等の差が地域間の格差を生むと言われています。

知識情報社会

大量生産大量消費型の産業構造から、知識情報産業が主となる、知識や知恵を活用した人材重視の産業社会に変化しつつあると言われています。

能力重視社会

グローバル社会化のもとで、日本型年功序列社会から一人ひとりを能力によって評価することが産業界をはじめ日本社会のなかに浸透しつつあります。

共生社会

社会の成熟化により、ユニバーサルデザインの考え方が浸透するとともに、高齢者

比率の高まり、外国人住民の増加など多様な文化や考え方など、お互いを認め合う社会をつくることの必要性が言われています。

グローバル社会

インターネット社会の進展や科学技術の発達により、個人やもの、情報が互いに国境を越えて行き来することが、以前にも増して容易になっています。

環境重視社会

地球環境の悪化が人類の存続にも影響を及ぼすということが世界的に認識されるようになり、地域レベルから国際レベルまで取組が進展しています。

格差社会

グローバル化等により、日本型終身雇用の仕組みが崩れ、能力別賃金制度や非正規雇用の拡大、国際的な企業間競争の広がり等により、賃金格差、地域間格差など、さまざまな格差が大きくなっているとされています。